

## 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要 投稿規定

2003年1月制定

2010年2月改定

2013年11月改定

2014年10月改定

2016年5月改定

## 投稿者の資格

著者または共著者は、原則として秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻の専任教員に限る。ただし、紀要編集委員会において承認された場合はこの限りではない。

## 論文の採択

原稿は未発表のものに限る。投稿論文の審査は査読制とし、採否は編集委員会において決定する。ただし、学位論文については学位審査の結果を考慮する。

## 原稿の様式と書き方

1. 投稿原稿は和文および欧文の原著、研究報告、総説、症例報告、短報、事例、資料とする。
2. 投稿原稿は、電子投稿とする。MS-Word形式の電子ファイル（投稿票、投稿原稿）を電子メールの添付ファイルとして送付する。
3. 本文はMicrosoft社のWordを使用し、図はWord・Excel・Power Point、表はWord・Excelで作成する。
4. 投稿原稿の1ページ目の最上段に論文タイトルを記載し、1行空けて本文を開始する。本文中の著者名および所属、投稿者を特定できる引用文献、謝辞などの情報はxxxと伏字にする。投稿原稿の規定については、付表1を参照する。
5. 投稿原稿は、A4版用紙を用いる。文字の大きさは12ポイント程度とし、1枚に40字×30行として設定する。欧文はダブルスペースで記載する。
6. 投稿原稿には和文要旨、英文要旨をそれぞれ別のファイルにして添付する。論文のページ下中央部にページ番号を記載する。
7. 記述は新かなづかいで原則として常用漢字を用い、度量衡は国際単位系（SI単位）を用いる。
8. 外国の人名、地名は原語あるいはカタカナとする。
9. 略語は本文中の最初に出たところで、フルスペルで記載する。
10. 学位論文の場合は、論文の最後に学位論文であることを明記する。
11. 欧文論文の場合は、原則としてネイティブ・チェックを受けてから投稿する。
12. 英文要旨について、ネイティブ・チェックを受けた場合はその旨を記載する。
13. 査読を受けて論文掲載が決定したのち、本文の投稿者を特定する情報の伏字xxxの部分に正規の情報および図表の挿入位置を記載した最終原稿を編集委員会に提出する。最終原稿は、①電子ファイル、②A4の用紙に印刷したコピー1部を編集委員会に提出する。電子データの提出は、電子メールへの添付ファイルとして送付する。

付表1：投稿原稿の規定  
 〈和文論文の場合〉

	制限文字数 (図表を含む)	和文要旨	索引用語 (Key Words)	英文要旨 <sup>注)</sup>
原著	20000字以内	600字以内	5語以内	250words 以内
研究報告	12000字以内	400字以内	3語以内	250words 以内
総説	20000字以内	400字以内	3語以内	250words 以内
症例報告	12000字以内	400字以内	3語以内	250words 以内
短報	6000字以内	200字以内	3語以内	250words 以内
事例, 資料	12000字以内	400字以内	3語以内	250words 以内

注) 英文要旨の語数には題名・著者名, 所属名は含めない。

〈欧文論文の場合〉

	制限文字数 (図表を含む)	和文要旨	索引用語 (Key Words)	英文要旨 <sup>注)</sup>
原著	5000words 以内	600字以内	5 words 以内	250words 以内
研究報告	3000words 以内	400字以内	3 words 以内	250words 以内
総説	5000words 以内	400字以内	3 words 以内	250words 以内
症例報告	3000words 以内	400字以内	3 words 以内	250words 以内
短報	1500words 以内	200字以内	3 words 以内	250words 以内
事例, 資料	3000words 以内	400字以内	3 words 以内	250words 以内

注) 英文要旨の語数には題名・著者名, 所属名は含めない。

#### 図, 表, 写真

1. 図, 表, 写真は本文とは別に一括して提出する。また, 挿入希望箇所は, 本文右欄外に指定する。
2. 図, 表は印刷可能な鮮明なものを提出する。  
図表1枚の刷り上がりの大きさと文字数の換算は, 以下の通りである(タイトル, 脚注, 凡例等を含む)。  
1/4頁程度 400字      1/2頁程度 800字      1頁相当 1600字
3. 写真原稿は, 白黒, カラーを問わないが明瞭なものに限る。大きさはキャビネ版を原則とする。印刷は白黒を原則とするが, カラーを希望する場合には実費を徴収する。

#### 文献の書き方

1. 本文の引用順に並べる。本文中には右肩に $\cdot\cdot\cdot^{1, 5, 8)}$ ,  $\cdot\cdot\cdot^{1-5)}$ のように片カッコで番号を付す。  
記載方法は下記のごとくとする。
  - 1) 雑誌の場合 $\cdot\cdot\cdot$ 著者名: 論文題名. 雑誌名 巻(号): 頁(最初-最終), 西暦年号  
[例]
    - 1) 工藤由紀子, 石井範子・他: 「抗がん剤曝露を防止するための患者・家族への指導指針(案)」の看護師による評価. 秋田大学保健学専攻紀要22(1): 35-43, 2014
    - 2) Yuasa T, Maeda A, et al.: Quantitative EEG data and comprehensive ADL (activity of daily living) evaluation of stroke survivors residing in community. J Physiol Anthropol Appl Human Sci 20(1):37-41, 2000
  - 2) 単行本の場合 $\cdot\cdot\cdot$ 著者名: 分担項目名. 書名. 版, 編集・監修者名, 発行所名, 発行地, 西暦年号, 頁(最初-最終)  
[例]
    - 1) 塩谷隆信: 肺理学療法(吸入療法と体位ドレナージ). 今日の治療指針. 山口徹・他編, 医学書院, 東京, 2001, pp178-179
    - 2) Astrand PO, Rodahl K: Textbook of work physiology. 3rd ed, McGraw-Hill Book Co, New York, 1986,

pp130-131

- 3) Web ページ, Web サイト, 電子ジャーナルの場合・・・著者名: Web ページの題名, Web サイトの名称または電子ジャーナルの名称 Vol(No), (媒体表示), 入手先 <URL>, (参照年月日)

\* Web サイトの名称は, 著者名と同じ場合は不用

[例]

- 1) 川村治子: 看護のヒヤリ・ハットの分析～与薬(注射)エラー発生要因の分析を中心として～(医療審議会総会 6月26日会議報告書), 厚生労働省, (オンライン),  
入手先 <[http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1206/h0626-1\\_10.html](http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1206/h0626-1_10.html)> (参照2002-11-25)
  - 2) Chisevecu D.P., Mihailescu I., et al.: Injection practices among nurses-Valcea, Romania, 1998, JAMA285(9), (online), available from <<http://jama.ama-assn.org/issues/v285n9/full/jwr0307-3.html>> (accessed 2003-3-10)
2. 雑誌の略名は, 邦文雑誌は「医学中央雑誌掲載誌目録」に, 欧文雑誌は「Index Medicus」に準拠して記載する。  
3. 文献の著者名が3名以上の場合は最初の2名を書き, 他は「・他」または「et al.」とする

#### 倫理的配慮

ヒトを対象とした研究では, 「ヘルシンキ宣言」ならびに「疫学研究に関する倫理指針」を遵守する。また動物実験を用いた研究は, 「秋田大学動物実験指針」あるいはこれに準ずるものを遵守する。

なお, ヒトおよび動物を対象とした研究では, 行った倫理的配慮を具体的に必ず本文中に明記すること。また倫理委員会の承認を得て実施した場合は, 承認した倫理審査委員会の名称および承認年月日を本文中に明記する。

#### 電子ジャーナル

本誌は電子ジャーナル化されている。従って, インターネットを通して公開, 無料で検索, 印刷できることを著者全員が承諾した上で投稿する。また, 他の著作権者による図版, 写真などがある場合, 電子化公開の許諾を得るものとする。

#### 校正

著者校正は原則として, 初校のみとする。

#### 掲載料金

掲載料金は無料とする。別刷は30部を無料とするが, それ以上は著者負担とする。

## 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要 投稿票

必要事項を記入（該当項目には○をつける）のうえ本文とは別に提出して下さい。  
査読後の再提出の際にも修正したものを提出して下さい。

受付番号	(初回投稿では記載する必要はありません)	
提出年月日	年	月 日
投稿希望ジャンル (希望番号に○印)		
1. 原著, 2. 研究報告, 3. 総説, 4. 症例報告, 5. 短報, 6. 事例, 7. 資料		
和文表題		
[上記表題の30文字以下の簡略した表題(ランニングタイトル用)]		
英文表題		
キーワード (5語以内, 日本語)		
1.	2.	3.
4.	5.	
著者(筆頭者から順番に)		
氏名(日本語/ローマ字)	所属(日本語/英語)	
投稿者(連絡者)の氏名・連絡先 (tel/e-mail)		
氏名:		
連絡先:		
原稿の文字数および図表の枚数・換算文字数	【合計】	字(語)
本文(含む文献)	字(または語) /	
図(含写真)	枚・字 / 表	枚・字 / 図説明等 枚・字
※欧文論文の図表については枚数のみ記入して下さい		
native speakerによる英文要旨校閲	<input type="checkbox"/> 受けている	<input type="checkbox"/> 受けていない
カラー印刷希望	無 ・ 有 (カラーを希望する理由; )	
別刷希望部数	部 (30部まで贈呈、それ以上は著者負担)	
備考: 学位論文の一部を提出する場合に記載してください。 1. 修士論文 2. 博士論文		

## 編 集 後 記

この編集後記を書いているのは三月初め。この号が世に出る頃には新しい年号が発表されているかもしれない。人により平成の出来事で何が一番印象に残っているかは異なるだろう。自分にとっては、現在と同じ着任二年目で迎えた職場で遭遇した東日本大震災に尽きる。

その日は金曜日で折しも卒業式が予定されていた。緊急地震速報の警戒音が鳴り響く中、研究室にいた自分は、もしキャビネットが倒壊したら閉じ込められるかもしれないと思い、あわてて廊下に出た。そしてドアノブにしがみつきながら、揺れのおさまるのを待った。どれだけ長く感じたことか。ようやく揺れがおさまりかけて、ほっとしたのも束の間、また激しく揺れだし、建物と建物のつなぎ目がギシギシ音をたて、ひびが入り、蛍光灯が天井から落ちてきて、周囲が真っ暗になった。そして不気味な静寂が訪れた。

まだスマホが無いなか携帯のワンセグ画面で、大津波警報を知り、これからどうなることや何かも考えられなかった。その時からしばらくは、学生の安否確認が業務になった。

その日を境に、古の人が神仏にこめた願いが、少しだけ身近になった気がする。新たな時代は、天変地異、人災、争いの少ない世であることを切に願うだけである。

平成31年 3月 5日

紀要編集委員長 浅野 朝 秋

## 「秋田大学保健学専攻紀要」編集委員

山 口 典 子 [基礎看護学講座]	永 田 美奈加 [地域生活支援看護学講座]
竹 内 直 行 [理学療法学講座]	佐々木 誠 [理学療法学講座]
浅 野 朝 秋 [作業療法学講座]	津軽谷 恵 [作業療法学講座]

## 「秋田大学保健学専攻紀要」第27巻第1号

平成31年 3月31日 発行

〒010-8543 秋田市本道一丁目1の1  
発行 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻  
電話 018(884)6008  
FAX 018(834)8619  
印刷所 秋田活版印刷株式会社



